

NEWSLETTER

NO. 28

9 JANUARY 2002

・2001年地理学教室の行事記録	・・・・・・ 1
・第1回ジオグラフィック・アライアンスの開催	・・・・・・ 2
・フィリピン・デラサール大学との国際交流セミナーの報告	2
・2001年度地理実習の記録	・・・・・・ 4
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・・・ 6
・2001年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・・・ 7
・国土館地理学会費の納入について	・・・・・・ 8

【2001年地理学教室の行事記録】

- 2月5・6・7日 平成12年度 卒業論文公開口頭試験
5月22日 環境アセスメント野外実習（多摩川の水質：高野）
5月30日～31日 1年生地理実習
（鶴川地区・新百合ヶ丘地区：長島、野口、長谷川、内田、岡島、磯谷、加藤）
6月1日 9月卒業生公開口頭試験（10401ゼミ室）
6月3日 生物地理学野外実習（生田緑地：磯谷）
6月9日 国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 10号館ほか）
<講演会> 加藤 幸治氏（本学専任講師）
「日本におけるサービス経済化の展開と地域経済開発」
<総会> 10号館10329教室
<懇親会> 学生ホール
7月21日～28日 測量夏期集中実習（世田谷：中村）
7月26日～27日 第1回ジオグラフィック・アライアンス（長谷川、院生2名）
7月31日 国土館地理学会巡検（等々力溪谷：磯谷）
8月7日～11日 自主巡検（伊豆半島：磯谷）
8月25日～9月7日 自主巡検（沖縄石垣島：長谷川）
9月3日～9日 フィリピン・デラサール大学との国際交流セミナー：フィリピン訪問
（長島、磯谷、学生10名）
9月23日 国土館地理学会巡検（横浜市：内田）
10月2日～3日 2年生地理実習
（埼玉県川口市・さいたま市：長島、長野県霧ヶ峰高原：野口・長谷川、
神奈川県箱根町：内田、栃木県栃木市：岡島、長野県茅野・蓼科方面：磯谷、
東京都墨田区：加藤）
10月23日～26日 3年生地理実習
（大阪：長島、福島市：野口、千葉県千倉町周辺：長谷川、札幌市：内田、長野市：岡島、
伊豆半島：磯谷、千葉県木更津市：加藤）
10月29日～11月11日 フィリピン・デラサール大学との国際交流セミナー：フィリピン学生受け入れ
（長島、磯谷ほか、学生・院生）
12月15日 国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 6号館ほか）
<講演会> 土谷 敏治氏（駒沢大学教授）
「都市における公共交通の課題と展望 ドイツの事例を中心に」
<ゼミ発表> 石田樹、藤原裕子、小関英治、塚原愛恵、三橋和則、佐藤洋平、白井清太郎
<懇親会> 学生ホール
12月21日 大学院(地理・地域論系)合同ゼミ

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。4年生で未返却の者は、卒論口頭試験が受けられません。

【第一回ジオグラフィック・アライアンス；「私たちの町の環境を宇宙から調べる」
社会科教員のための環境リモートセンシング・ワークショップ」の開催】

地理学専攻では、今年度から「ジオグラフィック・アライアンス」というプログラムを始めました。今年度は標記のテーマで7月26、27日の二日間にわたり、情報科学センター第二端末室を会場に開催されました。担当は長谷川均教授で、大学院生の後藤智哉さん、青木直美さんがティーチングアシスタントとして協力してくださいました。

開催の目的は、1)：大学の研究成果を、社会・教育界へ還元する。2)：本学の教育内容を紹介し、中高校教員との交流を深める。などというものです。

ワークショップの内容は、1)：環境リモートセンシングに関する初級～中級程度の講義と実習。2)：衛星データの取扱、画像処理に関する講義と実習。3)：地理教科書に準拠した、授業で使える教材・ソフトの紹介でした。

参加者は、中・高校の理科や社会の先生方、大学の先生方など20名あまりで、遠くは岩手県から参加された方もいらっしゃいました。初心者にはハードな内容だったと思いますが、参加者のみなさんは非常に熱心に取り組みられました。二日目のレセプションでは、来年もこのようなプログラムを開催する声があがり、さっそく計画が進んでいます。来年はGISワークショップを開催する予定です。

なお、今回の開催は情報科学センターの協力なしでは実現できませんでした。協力を感謝いたします。

(長谷川 均)

【フィリピン・デラサール大学との国際交流セミナーの報告】

地理学教室では、学術国際課との連携により、2001年の9月から11月にかけて、国際交流の協定校であるフィリピンのデラサール大学（教養学部国際研究学科日本研究コース）との国際大学交流セミナーを実施し、無事終了した。これは、両国の学生がお互いの国を訪問しあって交流することによって、相互理解と友好親善を増進するためのプログラムである。

プログラムは、地理学教室からのフィリピン訪問プログラム（9月3日～9日）と、デラサール大学からの日本訪問プログラム（10月29日～11月11日）により構成された。フィリピン訪問プログラムへの参加者は、地理学専攻の10名（1年生1名、2年生9名）と教員2名（長島、磯谷）の計12名であった。地理学専攻からデラサール大学に留学中の学生（奥山友希乃）もプログラムに加わった。デラサール大学からの日本訪問プログラムには、学生11名（学部生7名、大学院生4名）と教員2名の計13名が参加した。後者のプログラムは、フィリピンを訪問した教員と学生および学術国際課の職員のほか、地理学教室の他の教員や院生および学長をはじめとする大学関係者の協力によって遂行された。

実施された各プログラムの概要は以下のとおりである。

地理学教室からのフィリピン訪問プログラム

- 9月3日 出発・マニラ着、オリエンテーション、歓迎会
- 4日 デラサール大学訪問（紹介、講義、交流）、マニラの市内を見学
- 5日 フィリピン大学自然誌博物館・国際稲作研究所・農村（マハイハイ）を見学・訪問
- 6日 タール火山（二重カルデラ）、マニラの市内を見学
- 7日 ピナツボ火山噴火による被害状況、米軍基地跡地のスービック地区を見学（現地泊）
- 8日 スービック地区を見学、海水浴、さよならパーティー（マニラ泊）
- 9日 帰国

（7日と8日以外はデラサール大学の近くにある同大学の国際交流センターに宿泊した）

デラサール大学からの日本訪問プログラム（10月29日～11月11日）

- 10月29日 到着
- 30日 国士館大学訪問（オリエンテーション、講義、質疑応答）、歓迎会
- 31日 東京の都心部（丸の内、浜松町など）を訪問
- 11月1日 東京の下町（江戸東京博物館、プレーキ博物館、浅草など）を訪問
- 2日 国立歴史民俗博物館と東京湾岸地域（幕張、谷津干潟など）を訪問

- ン
- 3日 国土館大学を訪問・楓門祭を見学
 - 5日 首都圏近郊地域の農業・農村と都市化を見学（シクラメン農家、梨園、千葉ニュータウンなど）
 - 7～8日 北関東の農村：川場村を訪問（講義、歴史民俗資料館、りんご園、田園プラザなど。現地泊）
 - 10日 国土館大学訪問（討論会、講義、まとめ）、さよならパーティー
 - 11日 帰国
- （11月4日・6日・9日は自由見学。7日を除き江東区東大島のホテルに宿泊）

写真1 マニラの南、ラグナ州の農村（マハイハイ）を訪問したときの様子（2001年9月5日）

写真2 千葉県船橋市内の梨園を見学したときの様子(2001年11月5日)

国土館大学地理学教室からデラサール大学には2001年度にも既に1名の学生が留学しているが、今回のセミナーの実施によって、両校間におけるさらに密接な交流が進展することが大いに期待される。

(磯谷 達

宏)

【2001年度地理実習の記録】

1年生地理実習：5月30日(水)，31日(木)実施

野口・岡島・長島・長谷川・内田・磯谷・加藤

実施地：町田市鶴川地区、川崎市麻生区新百合ヶ丘地区

参加学生数：74名(男子57名、女子17名)

テーマ：鶴川・新百合ヶ丘地区の都市化・宅地化の展開

内容：大都市近郊の多摩丘陵地域に位置する鶴川・新百合ヶ丘地区において土地利用や住宅地景観の調査を行い、都市化・宅地化の進行の特徴や地形改変の様子について考察する。

課題：各調査地区について土地利用図と建物分布図を作成し、標記のテーマについてレポートにまとめる。

2年生地理実習：10月2日(月)，3日(火)実施

長島

実施地：埼玉県川口市・さいたま市

参加学生数：9名(男子7名、女子2名)

テーマ：都市近郊農業・農村の現状と課題

内容：第1日 川口安行地区の盆栽、植木栽培。川口緑化センターで地域の概況・課題について説明。班(2人)毎に2・3軒の農家訪問、夜のミーティングで報告

第2日 東浦和駅から見沼代用水路沿いに「さいたま緑のトラスト1号地」まで歩く。

途中市街化調整区域観察、ナショナルトラスト指定地区の現状観察。

まとめ。

事前準備：川口の盆栽の歴史、見沼代用水路の歴史、見沼たんぼの保全について調べ、原稿用紙(400字)5・6枚にまとめ、当日持参すること。

提出レポート：原稿用紙(400字)にして20枚以上(含む図、表、写真)

野口・長谷川

実施地：霧ヶ峰高原

参加学生数：20名(男子15名、女子5名)

テーマ：霧ヶ峰高原の小気候と周氷河地形

内容：霧ヶ峰高原に分布するさまざまな周氷河地形を観察した、また、この地域の近世以降の景観変化と周氷河地形の関係や、特徴的なこの地域の小気候と周氷河地形の関わりなどを現地で学んだ。

課題：図表や写真を含め、原稿用紙20~30枚程度のレポート作成。

内田

実施地：神奈川県箱根町 静岡県三島市

参加学生数：10名(男子8名、女子2名)

テーマ：富士箱根の風景美と観光地の解説

内容：風景の観賞方法について実習する。箱根の観光集落を、観光戦略という点から記号論的に解説する。

課題：レポート1 箱根の風景美について レポート2 記号としての風景

岡島

実施地：栃木県栃木市

参加学生数：10名(男子10名、女子0名)

テーマ：近世・近代における都市と交通に関する歴史地理調査

内容：事前学習 夏休みに「河川水運の役割と地域的展開」について学習し、2000字以上にまとめる。

第1日 各班(2名)ごとに、栃木市街地において町並みの家屋調査と聞き取り調査を行い、町の現状と変遷過程について考察する。

第2日 午前：栃木市街の歴史的町並みの見学。岡田記念館の見学。

午後：前日の補足調査。

課題：「近世都市栃木の近現代における変遷」

町並み調査結果の地図を作成し、標記の課題についてレポートを作成する。

磯谷

実施地：長野県茅野市・蓼科方面

参加学生数：10名（男子10名、女子0名）

テーマ：山地帯から亜高山帯にかけての植生

内容：標高の異なる4地域の森林植生（コナラ林、ミズナラ林、シラビソ・オオシラビソ林など）を中心に、群落の分布や組成・構造・動態・成立環境などを調べた。

課題：調査地域の植生について、日本全体の植生帯との関係も含めて、A4版20枚以上のレポートとしてとりまとめる。

加藤

実施地：東京都墨田区

参加学生数：10名（男子10名、女子0名）

テーマ：墨田区における工場跡地の利用

内容：墨田区において「工場跡地」の利用状況を調査し、都市の土地利用変化について考察する。

課題：調査結果一覧を作成するとともに、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。

3年生地理実習：10月23日（火）～26日（金）実施

長島

実施地：大阪・神戸および周辺地域

参加学生数：10名（男子9名、女子1名）

テーマ：各人の設定したテーマ

大阪湾ウオーターフロント開発、大阪市中心部におけるイタリアレストランの立地、阪神淡路大震災以後の神戸のまちづくり、吉野林業、大和郡山市の金魚養殖など

提出レポート：原稿用紙（400字）にして30枚以上（含む図、表、写真）

野口

実施地：福島県福島市とその周辺

参加学生数：6名（男子6名、女子0名）

テーマ：福島盆地における気候の永年変化と都市の気候

内容：事前準備として、1）都市気候関連論文の講読、2）福島地方気象台の気候要素の永年変化グラフおよび自己ラグ相関の計算を割り当てた。

当日は、3）全員による朝晩の都市気温観測と図化、4）福島地方気象台の見学と質疑応答、5）学生個人のテーマ設定による調査、で構成された。

課題：気温の移動観測と器差補正・時刻補正の仕方を学ぶ。また、各自のテーマにより、卒論の手引きに準じてレポートを提出する。

長谷川

実施地：千葉県千倉町周辺

参加学生数：10名（男子5名、女子5名）

テーマ：3グループに分かれて、グループごとに設定したテーマで調査した。

内容：海成段丘班（測量と段丘堆積物の観察）、海岸地形班（複数の地点の岩石海岸の測量、地質と微地形の関係、岩盤の物性などを調査）、土地利用班（現在の土地利用を調査し、変遷をGISソフトで比較した）

課題：図表や写真を含め、原稿用紙20～30枚程度のレポート作成。

内田

実施地：北海道札幌市周辺

参加学生数：6名（男子6名、女子0名）

テーマ：各人でテーマを設定する

内容：各人のテーマに従って論文作成のために必要な現地調査を行う。

例：札幌市内の都市公園の利用、余市町における高齢者の医療行動、子どもの環境認知、白老町のカタカナ地名、富良野市の観光、小樽運河の観光

課題：各自の研究テーマに基づいて、研究論文としての体裁を整えたレポートを提出する。

岡島

実施地：長野市

参加学生数：11名（男子8名、女子3名）

テーマ：長野市とその周辺における地域調査

内容：主として交通地理・歴史地理に関して、各自が設定したテーマに基づいた資料収集、聞き取り等の調査。例：しなの鉄道の現状と課題、長野市のバス交通の現状、中心商業地の変容と市街地活性化問題、長野オリンピックを契機とした道路網整備と効果、善光寺門前町の歴史的街並みと変化、など。

課題：各自が設定したテーマについてのレポート作成

磯谷

実施地：静岡県南伊豆町

参加学生数：9名（男子7名、女子2名）

テーマ：南伊豆地域の生物地理

内容：海岸植生班、渓谷林班、湿生・水生群落班、里山・動物班の各班に分かれ、各自がそれぞれ事前に準備した一貫したテーマについて調査を行った。

課題：各自が調査した内容について、A4版30枚以上のレポートとしてとりまとめる。

加藤

実施地：千葉県木更津市

参加学生数：8名（男子6名、女子2名）

テーマ：木更津市とその周辺における地域調査

内容：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査。例：郊外住宅地における住環境認識・東京湾アクアラインの現状、木更津市におけるチャレンジショップの実態、木更津駅周辺の環境および交通の整備状況など。

課題：各自が設定したテーマについて、調査結果を中心にレポートをまとめる。

国土館地理学会巡検

第1回（引率者：磯谷）：7月31日（火）実施

実施地：世田谷区等々力渓谷

参加学生数：9名（男子8名、女子1名）

テーマ：自然景観を読む - 等々力渓谷の地形と植生を中心に -

内容：地形・土壌の発達史や、植生の組成・構造・動態・成因などを中心に、現地で自然景観の見方について解説した。

第2回（引率者：内田）：9月23日（日）実施

実施地：神奈川県横浜市

参加学生数：9名（男子4名、女子5名）

テーマ：横浜の歴史と産業にふれる巡検

内容：野毛山公園、横浜カレーミュージアム、生麦事件碑、キリンピアビレッジを見学

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジユメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピーは必ず持参してください。その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーは、卒論の合否が決まるまで処分しないこと（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2002年3月16日（土）東京学芸大）で発表してもらうことになります。

日時：平成14年2月12日（火）13：00～、13日（水）9：00～、14日（木）9：00～

場所：世田谷校舎 10号館2階 階段教室（10204教室）

注意事項（よく読むこと）：

試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。（発表時の予鈴7分、本鈴9分）。

発表に際しては、かならず以下の要領でレジユメを用意しておくこと。レジユメはワープロにより作成することが望ましい。

1. レジユメは、論文題目、氏名、論文の要旨（計800字程度で目的・方法・結果を書く）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジユメの枚数は、A3サイズで2枚、横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー）。
3. レジユメは、発表者交代の合間に、当該発表者の次の発表者が配るものとする。その際、まずはじめに教員に配ること。

発表では、スライドやOHPなども使用できる。

(PCプロジェクターを使う場合、ノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定で、外部モニターと内部LCD表示を同時に使用する必要があるため、PCのマニュアルをよく読み、この設定の仕方を確認しておくこと)

3年生は来年のためにも、全員2日以上出席すること。1、2年生もできるかぎり1日以上出席すること。必ず今後の参考になる。

【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査
2月12日(火) 13:00~15:10 <進行:岡 島>				
2	佐藤 一郎	東京都及び周辺地域における酸性雨について	野 口	磯 谷
3	長島 孝明	首都圏におけるゴルフ場会員権価格と各高速道路の距離との関係について	長 島	加 藤
4	小島 穂高	首都圏における日本なし産地の地域的特性 品種を中心に	長 島	内 田
6	宇野美菜子	千葉県の大気汚染について 窒素酸化物(NO _x)を指標として	野 口	長谷川
9	梅沢 香織	筑波おろしの特性について	野 口	長谷川
10	大達 恵美	富山県における都市と農山漁村の交流による地域活性化 3つの市町村を中心に	長 島	加 藤
11	渡邊 理沙	茨城県鹿嶋市におけるスポーツを活かしたまちづくり プロサッカーチーム誘致後の変化を中心として	岡 島	内 田
15:20~17:50 <進行:磯 谷>				
12	山田 尚人	地方都市における路面電車の可能性と路線環境 富山地方鉄道市内線と加越能鉄道万葉線を事例として	岡 島	内 田
13	佐藤 佑介	北海道栗山町におけるW杯キャンプ地と街づくりについて	長 島	岡 島
14	中西 千秋	相模川下流域における洪水氾濫区域の土地利用とその経年変化について	長谷川	磯 谷
15	江守 謙次	関東地方の雨日数 アメダスデータをもとに	野 口	内 田
16	本園 義秀	地方都市における中心商店街の活性化について 宮崎県都城市を事例に	長 島	加 藤
17	樋口佐恵子	気象データおよび生活感覚から捉えた「赤城おろし」について	野 口	長谷川
19	渡辺 辰史	新潟県から福島県にかけての降雪に関する考察	野 口	長谷川
20	阿部 潤	宅地造成地に成立した二次草原の帰化率について 神奈川県横須賀市湘南山手地区を例にして	磯 谷	内 田
2月13日(水) 9:00~12:00 <進行:加 藤>				
21	木村真理子	東京西部におけるスギの衰退現象	磯 谷	長谷川
23	梅田 奈美	乗鞍岳における構造土の分布と地形との関係について	長谷川	野 口
27	中村美智子	群馬県片品川の横断面に沿う気温調査	野 口	長谷川
31	天賀 義彦	北海道オホーツク海沿岸クッチャロ湖周辺における 湿地植生の抽出に有効な光の波長帯について	長谷川	野 口
36	中臣 雅史	小田急線沿線各地域に関する地域的特徴と居住者の特性 新宿、成城、新百合ヶ丘の三地域を事例として	内 田	岡 島
42	大和田博之	水源涵養林の管理と下流域の市民参加	長 島	岡 島
47	福岡 裕介	白山における「お花畑」景観の分類と分布について	磯 谷	加 藤
51	市川 智之	梅雨期の降水の特徴について 関東地方を例に	野 口	磯 谷
64	江里 篤史	千葉市におけるコンビニエンス・ストアの立地と物流に関する一考察	加 藤	内 田
66	山田 宏幸	明治期から昭和初期における神奈川県三浦半島の鉄道敷設過程	岡 島	内 田
13:00~15:10 <進行:長谷川>				
67	沢野 康子	東京都大田区羽田地域の近現代における変遷過程	岡 島	加 藤
68	那須 敏	相模原段丘面上にみられる特徴的地形の分布と土地利用との関係	長谷川	磯 谷
71	岸 明子	蔵王山刈田岳付近におけるアオモリトドマツの枯死・更新パターンと その立地環境について	磯 谷	加 藤
72	下条 洋介	近世福岡城下町における福岡・博多の町屋について	岡 島	内 田
74	葦沢 和弘	新潟県湯沢町における地域開発 リゾートマンション開発から自然を生かした観光を中心に	長 島	加 藤
75	宮崎 真紀	軽井沢町における観光地化と周辺地域の変容について	岡 島	内 田
77	高橋 潤	高齢化地域における茶業経営 静岡県榛原郡川根町・小笠郡菊川町を事例に	長 島	加 藤

78	滝原 悟	15:20~17:50<進行:内 田> 石垣島東岸サンゴ礁海域における陸域からの栄養塩の流入 晴天時と雨天後の全窒素の変化を中心に	長谷川	磯 谷
80	計良 千都	東京湾沿岸地域における夏季の海陸風について	野 口	磯 谷
81	前野 勇貴	東京における秋季のヒートアイランド現象 国道246号線に沿う移動観測	野 口	岡 島
82	春日 英幸	長野県南安曇郡三郷村及び梓川村のリンゴ栽培の実態と課題	長 島	加 藤
84	大谷 嘉克	郊外地域における防火樹林機能について	磯 谷	長 島
86	大平 喬章	都市化に伴う中小河川の利用形態の変化について 神田川支流・桃園川を事例として	岡 島	長 島
87	内田 雅史	神奈川県小田原市鴨宮地域における大型店立地による地域への影響	岡 島	加 藤
88	木村 和宏	東京競馬場とその周辺の気候環境	野 口	磯 谷
2月14日(木) 9:00~12:00<進行:磯 谷>				
89	溝邊 貴彦	飯豊山地北西部玉川源流部の氷河の認定	長谷川	野 口
90	石原 祐介	東京都江東区におけるブタクサ・オオブタクサの分布と生態	磯 谷	野 口
91	木村 郁子	山形県酒田市における生活環境評価 生活関連施設を指標として	長谷川	加 藤
92	阿部 綾子	多機能複合施設による地域の開発について 臨海副都心地域を事例に	長 島	加 藤
95	霜田美希子	群馬県草津町の共同浴場について 共同浴場が地域住民に与える影響とその役割	岡 島	内 田
96	古村 勇一	子どもの属性と遊び環境の違いによる手描き地図の比較	内 田	岡 島
99	荒井 義幸	三浦半島森戸川流域におけるネコノメソウ属2種の分布とその生育環境について	磯 谷	長谷川
100	福島 理央	千葉県茂原市における中心市街地の活性化について	長 島	加 藤
101	後藤 智彦	秩父赤平川の支流合流がもたらす粒径変化の特徴	長谷川	野 口
103	川名 順平	埼玉県における県と住民による景観・まちづくり 13:00~15:30<進行:野 口>	長 島	内 田
104	辻 崇史	整備新幹線が地域に与える影響 長野新幹線を事例に	内 田	岡 島
105	村田 雅文	大都市郊外における市街地整備と新駅開設 営団地下鉄東西線妙典駅周辺地区を事例として	岡 島	加 藤
107	津田 寿人	千葉県九十九里浜における粒径変化	長谷川	内 田
108	根岸 章江	埼玉県加須市・羽生市における耕作放棄畑の草原植生とその組成について	磯 谷	野 口
115	中村 昌哉	高齢化社会における都市のまちづくりについて 東京都を例に	長 島	加 藤
119	奥山友希乃	静岡県清水市三保半島海岸最前列におけるクロマツの樹形と生育状況について	磯 谷	長谷川
121	児島 聡	東京の墓地需要と埋葬形態の変化	長 島	内 田

【国土館地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国土館大学地理学会費（12,000円）が未納となっておりますので、至急お支払いください。地理学教室では、4年分の会費を納めていない学生については卒業を認めておりませんので、いずれ必ず払うこととなります。早めに納入することを勧めます。

次の要領で、全員必ず会費を納入するようにして下さい。1月末までに郵便振替で納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を郵送します。

振替用紙は郵便局にあります（「口座番号：00150-7-161762、加入者名：国土館大学地理学会」と記入）。

ただし、本年度卒業予定者については、1月15日までに郵便振替で納入するか、または卒論口頭試験当日に持参すること。

< 4年生 >

< 3年生 >

< 2年生 >

< 1年生 >

（注：疑問の点は会計担当の内田まで連絡して下さい。なお、上記は12月19日現在の未納者です。）